

# 第1回審査委員会における主な御意見について



# 第1回における各委員からの御意見



委員からの主な御意見	委員御意見に対しての対応について
<p>「候補ルート」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 評価が供給側の視点だが、利用者側の視点での評価も必要</li> <li>✓ 道路状況のような無機質な評価だけでなく、魅力や使われ方の観点からの評価が必要</li> <li>✓ 各ルートのコンセプトに関する記述が必要</li> <li>✓ 降雪地域では自転車走行に向く期間が限定されることを周知することが必要</li> </ul>	<p>「候補ルート」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 指定要件に照らし、利用者の利便性や安全性等に資する評価項目を設定している。(資料1 P2)</li> <li>✓ 審査資料にコンセプトに関する記述を行う。(資料3 P2～4)</li> <li>✓ 情報発信において反映を行う。</li> </ul>
<p>「既指定ルートのフォローアップ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 利用者の視点が反映されたPDCAサイクルを実行すべき。</li> <li>✓ どういう人がどういう風に使っているか利用実態の把握が必要。</li> <li>✓ ナショナルサイクルルートの指定によって地域がどのように変わったかを発信することが必要</li> <li>✓ 自転車関連企業が地域に還元する取組が行われる等、指定が次の動きを生んでいる例などは紹介すべき。</li> </ul>	<p>「既指定ルートのフォローアップ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第4回委員会で再フォローアップを実施。</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ナショナルサイクルルート制度に対する一般の方の認識や理解が不足。</li> <li>✓ 英国ではあらためてナショナルサイクルネットワークに力を入れている。線ではなくネットワークの視点を考慮すべき。</li> </ul>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ナショナルサイクルルートの認知度向上に向けた取組として、ポスターやPR映像を作成。</li> <li>✓ 将来的には、全国のナショナルサイクルルートのネットワーク構想を検討する。</li> </ul>

# ナショナルサイクルルートの指定要件と評価項目の考え方について



観点	指定要件	考え方	評価項目
1. ルート設定	サイクルツーリズムの推進に資する魅力的で安全なルートであること	目的であるサイクルツーリズムの推進に資する魅力的で安全なルートである必要があるため	ルートの延長/ルートの魅力/ ルートの安全性/ルートの連続性/ 子供や初心者への配慮/ルートの名称
2. 走行環境	誰もが安全・快適に走行できる環境を備えていること	多様なサイクリストが安全に利用できる走行環境が整備されており、その維持管理がされていることは大前提となるため	走行環境の安全性/快適性/ 維持管理水準/危険箇所等の通報システム
	誰もが迷わず安心して走行できる環境を備えていること	多様なサイクリストが、ルート上を迷うことなく目的地まで行けることが必要であるため	ルートの案内
3. 受入環境	多様な交通手段に対応したゲートウェイが整備されていること	ゲートウェイは、サイクリングの出発地点となることから、利用者の快適で安心な利用をサポートするための機能が利用可能であるとともに、多様な交通手段に対応できる必要があるため	ゲートウェイの整備
	いつでも休憩できる環境を備えていること	ナショナルサイクルルートとして求める規模を勘案すると、一定間隔でサイクリストに必要な機能を有した休憩施設が必要となるため	サイクルステーション(休憩施設)の整備
	ルート沿いに自転車を運搬しながら移動可能な環境を備えていること	ナショナルサイクルルートとして求める規模を勘案すると、サイクリストのレベルや地形条件に応じて、公共交通による他の代替移動手段が確保されていることが重要であるため	ルート上の迂回を図るための代替交通手段/ 自転車回送サービスとしての代替交通手段
	サイクリストが安心して宿泊可能な環境を備えていること	ナショナルサイクルルートは、複数日に跨り宿泊を伴いながら利用できることを想定しているため、サイクリストが利用可能な宿泊施設が必要であるため	サイクリスト向けの宿泊施設
	地域の魅力を満喫でき、地域振興にも寄与する環境を備えていること	日本における新たな観光価値を創造する上で、来訪者に地域の魅力を伝え、その魅力により地域振興を図る仕掛けが必要であるため	ガイドツアーの実施状況/ イベントの開催状況
	自転車のトラブルに対応できる環境を備えていること	長距離のサイクリングにおいて、トラブルが発生した時に対応できることが必要であるため	補修部品・自転車用品販売/修理サービス/ トラブル時の自転車搬送サービス
	緊急時のサポートが得られる環境を備えていること	長距離のサイクリングにおいて、緊急時にサポートが得られることが必要であるため	緊急車両進入路/緊急時連絡サポート/ 緊急支援物品/
4. 情報発信	誰もがどこでも容易に情報が得られる環境を備えていること	多様なサイクリストがそれぞれのニーズに基づいた必要な情報を容易に確認できることが必要であるため	情報発信/ルートマップ/ ルートマップの入手/ルートのPR
5. 取組体制	官民連携によるサイクリング環境の水準維持等に必要な取組体制が確立されていること	ナショナルサイクルルートに指定された後も、継続的な環境維持が必要であるため	取組体制/ 地方版自転車活用推進計画への位置づけ

# NATIONAL CYCLE ROUTE



## ナショナルサイクルルート

ナショナルサイクルルートは、ルートの魅力や自転車の走行環境、サイクリストの受入環境などが高い水準にあるサイクルルートとして国が指定したものです。

サイクルツーリズムを活かした新たな観光価値の創造や地域の魅力向上に繋がる取組が各ルートで進められています。

### 第1次

### ナショナル

### サイクルルート

### 指定ルート

(2019.11.7)

#### ① つくば霞ヶ浦りんりんロード

霞ヶ浦などの水郷地域や筑波山などの豊かな自然や風景、鹿島神宮などに代表される歴史的・文化的資産など様々な地域の魅力が楽しめます。



#### ② ビワイチ

日本最大の湖「琵琶湖」を一周するサイクリングコースです。走り慣れた人なら一日で走れる距離ですが、2~3日かけて観光や食事を楽しむのがオススメです。



#### ③ しまなみ海道サイクリングロード

日本初の海峡横断型サイクリングルート。瀬戸内海の島々が織りなす絶景が楽しみ、世界中のサイクリスト達から注目を集めています。



2021年1月29日に新たな候補ルートが選定されました(2021年4月末現在の情報です)。



④ トカプチ400  
(北海道)



⑤ 太平洋岸自転車道  
(千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県)



⑥ 富山湾岸サイクリングコース  
(富山県)

# 今後の進め方について



2021年2月25日

第1回 審査委員会

2021年4月12日～5月1日

現地視察 & 意見交換

- ・候補3ルート of 概要
- ・現指定ルート of フォローアップ

- ・候補ルートの整備状況等確認
- ・地元協議会等との意見交換

2021年5月14日

第2回 審査委員会

2021年5月下旬

第3回 審査委員会

- ・現地視察 & 意見交換 of 共有
- ・必須項目 of 達成状況

- ・指定について  
必須項目、推奨項目、視察における委員意見  
～ を反映した改善方針等の提示

ナショナルサイクルルート指定

第4回 審査委員会

- ・現指定ルートの再フォローアップ